

「低出生体重児の新生児期発達における感覚刺激」

馬場 一雄（日大小児科）

新生児期の早期刺激には2つの範疇がある。1つは器具、装置やあるいはNICU勤務者による新生児への感覚的刺激である。1つは両親・児接触である。

第1の範疇には各種の感覚的刺激がある。我々は、低出生体重児におしゃぶり刺激、触覚刺激、視覚刺激の感覚刺激を与える第1の範疇に属する新生児早期刺激を研究目的とし、新生児期発達におよぼす影響を検討した。

第1に、双胎・低出生体重児の新生児期発達におけるおしゃぶり刺激と触覚刺激である。5組の1卵性双胎である低出生体重児に与え、体重増加によって評価した。5組ともおしゃぶり刺激と触覚刺激を受けた群の方が体重増加が良好であった。さらに長期効果を判定すべく、体重と津守・稲毛式発達指数DQを調べた。その結果は、2組においてのみ刺激を受けた双胎の一方の児が引き続き体重増加が良好であり、他の3組は刺激中止後は双胎のうち出生体重の大きい方の児に良好な体重増加がみとめられ、刺激を与えた出生体重の小さい方の児をうまわっていた。更に発達指数DQには差異を認めなかった。

第2にスナグリーの有用性である。スナグリーに収容された低出生体重児は看護婦の体温を感じ、泣きやみ、看護婦は低出生体重児の体のぬくもりを感じ、母性感および愛着が生ずる。

第3に鏡である。超未熟児を収容した保育器内に鏡を入れている。目は皮膚と同じ発生学的外胚葉層に由来していて、皮膚刺激すなわち触覚刺激に視覚刺激は相通ずるものがあると仮定する。皮膚に原始的視覚要素が残存しているものと理解すると、視覚刺激にも同様の効果を期待できるものと考えられる。

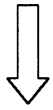
第4におしゃぶり刺激である。極小未熟児に対してtube feedingの間、おしゃぶり刺激を行っている。新生児の舌のmechanoreceptorは在胎30週から発達してくるといわれ、新生児の口腔内感受性の発達の問題からみても興味あるところである。

このように、NICU内で低出生体重児に各種の補足刺激を与えている。このことは低出生体重児の成長・発達に好ましい影響を及ぼしているものと考えられるが、これらの研究結果は効果判定の取り扱い方によって異なり、早急に結論を引きだすことはできない。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



新生児期の早期刺激には2つの範疇がある。1つは器具、装置やあるいはNICU勤務者による新生児への感覚的刺激である。1つは両親・児接触である。

第1の範疇には各種の感覚的刺激がある。我々は、低出生体重児におしゃぶり刺激、触覚刺激、視覚刺激の感覚刺激を与える第1の範疇に属する新生児早期刺激を研究目的とし、新生児期発達におよぼす影響を検討した。

第1に、双胎・低出生体重児の新生児期発達におけるおしゃぶり刺激と触覚刺激である。5組の1卵性双胎である低出生体重児に与え、体重増加によって評価した。5組ともおしゃぶり刺激と触覚刺激を受けた群の方が体重増加が良好であった。さらに長期効果を判定すべく、体重と津守・稲毛式発達指数DQを調べた。その結果は、2組においてのみ刺激を受けた双胎の一方の児が引き続き体重増加が良好であり、他の3組は刺激中止後は双胎のうち出生体重の大きい方の児に良好な体重増加がみとめられ、刺激を与えた出生体重の小さい方の児をうわまわっていた。更に発達指数DQには差異を認めなかった。